

同窓會日誌

五月二日 飯田氏藏書寄贈

紡績第一回卒業飯田四郎氏、紡績に關する貴重なる書籍三十五冊を寄贈され本會に於ては難有く之を受納した。

五月十一日 三谷先生還歴祝賀會

三谷先生、本年還曆を迎へられたので、吾等同窓會はいさゝか祝賀の意を表するため、高橋畫伯に御依頼して先生の肖像畫をものし、本日其の贈呈式を本館應接間に於て行つた。畫像は等身より幾分小さい位ゐの大きさで非常な出来ばえである。顔が稍々赤すぎるが先生にとつては反つて恰好な印象であると云ふ定評である。

林氏開會の辭を陳べ、校長、井上、石倉、浦生、森山、飯嶋の諸氏思ひ思ひに先生に關する有りし昔の感想談があつた。

井上先生が、昔、三谷先生の下で練絲法を研究して居られたが―此の事件は耳よりの話であるが―其當時先生は三谷半鐵山と云ふニツクネームを所有して居た程一徹頑固の猛者で隆々たる羽振りを利かせたものであつたそうなる。井上先生もかなり印象が深かつたものと見えて先生の思ひ出話の一節である。

酒の有効無効論が出た、三谷先生が極力有効を主張して此點許りは一步も他人に譲らないあたり、先生は老ひて益々旺んなる哉と大いに意を強ふするに足る次第である。

窓外に迫る暮靄に歎は盡きなかつたが閉會した。

五月三十日 故樋口氏の遺族より藏書並に書架の寄附を受く

故樋口氏は、植物學並に桑樹學を研究して居られた關係上之に關する藏書がかなり澤山あつた、其の書籍の大部分

百四冊と貴重なる文獻、パンフレット全部並に之を藏すべき書架一個、遺族から特に御寄贈があつたから本會では難有く之を受納した。

七月六日 佐藤利一教授出迎ひ

歐米留學を終り、本日横濱着にて目出度く御歸朝なつた佐藤利一先生を出迎ふるため、本會を代表して神奈川支部伊藤競氏が横濱埠頭迄出張された。

七月十五日 故樋口氏の展墓

樋口氏逝いて間もなく半歳を経過する、歲月は實に流るゝが如きものである、此の間に同窓生から集つた弔慰金は六百七十餘圓に達した、丁度祖靈祭の折をはかり、本會を代表して浦生、林、森山理事展墓旁々參邸し弔慰金を贈呈した。

七月三十日 紡績科卒業生懇親會

紡績科卒業生懇親會が東京市神田區旅籠町萬世軒に開催せられたので本會より杉木幹事が出席した。

八月四日 五泉大火

新潟縣五泉町大火の報新聞に見ゆ、五泉町には同窓二宮九二二(蠶四)丸山武夫(蠶五)兩氏が在住せらるゝので早速電報を以つて御見舞申上げたが、幸ひ兩氏には何等被害がなかつたと云ふ返電に接した。

同日 同窓森田氏講演

午後上田市商業會議所樓上に於て森田三郎氏の米國生糸事情に關する講演があつた。

八月十三日 理事會開催

小濱屋に於て理事會を開催す。浦生、林、倉澤理事參集、同窓會の發展を畫策するために、必ず毎月一回位の日を定めて集まり大いに研究しやうではないか!又集まる人の範圍を深めて、廣く意見を問はうではないか!と云ふ定期

研究会設置の議が持ち上がった。

其他本部の組織改善、會報の編輯、相互扶助案等を討議して深更解散した。

九月一日 故三吉先生一年忌

三吉先生一年忌が上田市鍛冶町本陽寺に執行された。本會よりは倉澤理事出席代表として焼香した。

九月三日 三日會例会

例の定期研究会を在田同窓生の二三に諮つた所大いに賛成を得たので本日第一回を松尾町近藤に開いた。來會者は十名であつた。

大休其日を毎月三日とし、名も三日會と稱することに決まつた。雨が非常に降つて居たので初めから誰云ふとなく電氣が消えそうな晩だと云ふ、其の豫感が箴をなしてか、中頃から停電して眞黒の闇、燭を點じ殆ど手さぐりで時事を研究し十時散會した。

九月五日 朝鮮の水害

朝鮮の一部猛烈の水害に襲はると云ふ報知が新聞に見えた、其附近の同窓生を氣遣ひ矢田部氏宛電報を以つて照會旁々御見舞申し上げた所、同窓生には被害殆どなき旨返電に接した。

九月十五日 二十週年祝賀に関する豫算の研究

此頃盛岡高等農林學校に二十五周年祝賀式があつて本校から太田會計課長が出席されたので特に御依頼して豫算其他に就て詳細の報告を願つた。其の内容を參考にして、本會の骨子を決めるため太田課長の出席を煩はし、養蠶部に於て生、林、森山、倉澤理事集合し種々研究し十時散會した。

九月二十三日 北信支部役員會

上田が北信支部の中心と云ふ關係で北信支部役員會が本校に開かれた。長野から支部の要路悉く集る總會其他の件

に就き種々協議された

十月五日 學校當局者二十週年祝賀の方法講究

母校々長室に於て、各科長御參集の上二十週年祝賀に際し、學校として採るべき方法、豫算等の研究會があつた。大体は盛岡高農の祝賀方法を基準として取捨選擇し略成案を得たが、結局校長指命の委員に一任することとなり散會した。

本會より浦生、林、倉澤理事が出席された。

十月八日 役員會、三日會開催

午後四時より養蠶部宿直室に於て、役員會並に三日會を合同で開く。とても非常な豪雨で、丸子行きの鐵橋が危険であると云ふ警報が頻々と舞ひ込む。長野から松村氏の來田はいさゝか無理であらうと氣遣はれたが、此の増水にもめげず敢然御來會を得たのは非常に難有かつた。諏訪の小林茂樹氏は工場が浸水すると云ふささぎで電話を諏訪からよせられた。思ひきつて大きな電燈をぶらさげて、會計、豫算、事業等に就て九時迄研究した。

十一月七日 評議員會並に三日會例會

本月の三日會は、校内の理事二名が出張不在であつたから本日迄延期した次第であつた。決算の承認事項等があつたから御遠方の評議員にも列席を願ひ、養蠶部宿直室に於て協議した。

十一月十五日 三日會再會

養蠶部宿直室に於て各支部提出問題の整理に關し三日會を再會し、且つ大會、講演會役割の分擔を行つた。

十一月十九日 準備委員會

浦生理事長宅に準備委員會を開催し、大會講演會の準備に就て種々打合せをなした。